

全ての生活保護受給者へのエアコン設置、 高すぎる国保料・介護保険料値下げを要求 自治体キャラバン奈良市対市交渉



奈良市キャラバン実行委員会は、当日交渉まで5回の実行委員会を開催してきました。奈良市に対する要求書については2回提出しました。まずは9月末に度重なる災害、熱中症対策などについて、来年度予算に組み入れていただきたい項目に絞って要請書を作成し提出しました。その後例年出している統一の要請書を10月19日に提出しました。その要請書には各構成団体の要請項目をまとめ、その中で重点項目をしぼり、下線で分かるようにして提出しました。全体交渉前に、各団体の出した要求についての交流を行おうと、11月8日に奈良市キャラバン実行委員会主催で要求交流会も行ってきました。11月16日の全体交渉には実行委員会から31名参加、奈良市側は各部局長がそろいました。まずは奈良市側から、提出した要請書の内、重点項目として下線で示している部分のみ、担当する各部局長から口頭で回答がありました。その後、各団体から重点項目に沿って質疑、要望をのべ、質問については担当部局長から回答して頂きました。今年大きな問題となった小中学校のエアコンの設置については来年夏までの設置をめざすことが回答されましたが、生活保護世帯へのエアコンの設置については、新たな生活保護世帯には補助ができることになったが、従来からの保護世帯には補助がでないことに対して、どうしてそこで差別するのか、怒りの声があがりました。また、国民健康保険料、介護保険料も引き上げられており、市民からは保険料が高すぎて払えないという声が出ていたことを訴えました。

しかし全体で2時間という中では各項目について十分に交渉することが出来ないため、後日各課ごとの交渉を調整していただくことを確認して終了しました。(なら健康友の会事務局長・中嶋潤二)

「非核兵器平和宣言のまち」再び掲示 広陵町とのねばり強い懇談が結実！

自治体キャラバン広陵町実行委員会



【写真左：住民要望へ回答する山村町長／写真右：再び掲示された非核都市宣言の掲示の前で喜ぶ地元住民】

●奈良県統一国保の中でも、町独自の保険料申請減免制度は継続

自治体キャラバン広陵町実行委員会は 123 項目に及ぶ要望書を広陵町に提出し、11 月 20 日に町とおおよそ 2 時間に及ぶ懇談を行いました。懇談には山村町長を始め松井副町長、植村教育長、奥田企画部長が出席、実行委員会からは新日本婦人の会、民商、農民連の皆さん、八尾市議、山田市議、今井光子県会議員が参加しました。懇談の中では巡回福祉バスの運行計画の改善、公営住宅設置、全ての生活保護世帯へのエアコン設置、保護世帯の子どもたちが大学進学できる制度の確立、学校給食の味の改善、台風 21 号による農業被害への対応などきめ細やかな要望がだされました。また、キャラバン奈良県実行委員会からは奈良県地域医療構想や地域別診療報酬導入による奈良県の医療への深刻な影響など報告がされました。国保の問題では、奈良県統一国保が進む中、国保 77 条による保険料申請減免制度を広陵町として継続したことに対し、「町長の英断、これからも継続してほしい」という応援の声もだされました。

●町民の訴えに応え、町長が非核都市宣言モニュメントの建立を約束

また、新日本婦人の会広陵支部の会員から「戦争と核兵器だけは絶対だめ。『非核都市宣言』の町舎掲示はとても大切だから、毎年ここに来て言い続けている。今日も来庁したとき掲示されていないととても悲しかった。町長さん宜しくお願いします。」と切実な訴えがあり、山村町長より「毎年、お話を聞くたびに重く受け止めている。いろいろな掲示物があるので、取り換えながら掲示していますが今日はたまたま、掲示していなかった。これではやはり不十分なので、掲示物ではなく庁舎の表玄関にスペースがあるのでそこにしっかりしたモニュメントを建立したいと思います。このことを今日、ここにいる企画部長、他町役員に指示します。」との回答が行われました。また、企画部長からは「たった今、非核都市宣言の幕を掲示するよう指示しました。皆さんがお帰りの時にはちゃんとかかっていると思います。」との回答があり、懇談会場はいっぺんに明るい雰囲気になりました。今後とも、粘り強い懇談を続けていくことの大切さを学んだ一日でした。(奈良県実行委員会・菊池)

—2018 年奈良県自治体キャラバン日程—

12 月 25 日(火)13:30～天理市／12 月 27 日(木)9:30～桜井市

※キャラバンに関するお問い合わせはこちら→0742-26-7135(実行委員会・竹末)